

**【公示】**

東京都私学部指導により、本園学校関係者評価の評価形式が下記の通り変更となりましたので公示します。【変更告示日2024年7月30日】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年7月20日公表  
学校法人安見学園  
板橋富士見幼稚園

本園の教育目標

- ・明るく伸びやかな心の育ちに
- ・仲良く元気に遊べる子どもに
- ・あきらめずやり遂げる力と優しい心に
- ・しっかりとした生活習慣の習得に

本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえて、一人一人の幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。

評価項目の達成及び取組状況

|   | 評価項目                                      | 評価 | 取組み状況   |
|---|---|----|---|
| 1 | 教育課程の見直し改善を図る                             | A  | 幼児の姿や遊びの記録を基に、教職員が定期的<br>に話し合い、ねらいや内容の見直しを行った。  |
| 2 | 教育の質向上のために<br>、園内研修を充実させる                 | A  | 幼児教育センター長と教職員会において、研修<br>企画を行い年間7名の有識者の下、年5回の研<br>修を実施した。幼児理解が深まり同僚性も育ま<br>れた。  |
| 3 | 特別支援教育のための<br>園内支援体制を整備す<br>る。            | A  | 特別支援コーディネーターを配置し、家庭や関<br>係者委員会と連携しながら、定期的にカンファ<br>レンスをを行い、支援計画を見直し実施した。   |
| 4 | 教育水準向上のための<br>6項目<br>(生き物との関わり・<br>植栽・英語) | A  | ・令和5年6月1日に、園内池で飼育されてい<br>る鯉が産卵し、1万匹近く孵化し水槽で飼育し<br>ていった。その後自然淘汰されていきながら、<br>卒園式を迎える時期には最終的に21匹の幼魚<br>として園の池に放たれた。卵から幼魚になるま<br>での姿を見て大切に育てたことは、子ども達の<br>心の教育として素晴らしい出会いをもたらした<br>。<br>・令和5年11月10歳を超えるモルモットが<br>亡くなり、子ども達と悲しみを共有し、園庭の<br>片隅に埋葬した。10年間もの間子ども達の傍<br>らで一緒に過ごしたことで、卒園生からもお花<br>やメッセージが届き、子ども達の幼児期のルー<br>ツとなっていることに気づかされた。<br>・様々な植栽を活用した共生教育に取り組ん<br>できた。幼児期の自然教育は、身近な生活とす<br>り合わせながら、自然をいたわり、自然への保<br>護意識を啓発しながら、将来地球規模で保全<br>する力となることを期待している。四季の流<br>れに沿 |

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
|  |  |  | <p>って、草葉（チューリップ・ヒヤシンス・クロッカスなど）の栽培や、苺の栽培、夏野菜の収穫や食への文化、そしてアンズのジャムづくり、ブドウの収穫、ゆずやミカン、米作り等年間を通じて、園庭が子ども達との共生の場所となりつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昆虫や生き物との出会いにより、自然環境の重要性を肌で感じる場となっている。教職員も、子ども達に自然の変化を育てていくために、毎日の変化を様々な形で気づけるよう、門前のテーブルにディスプレイし、想いを伝えるようにしている。</li> <li>・外国人のネイティブスピーカーを英語教師として週に1度程度定期的に招き、英語レッスンを楽しんだ。親しみを持って英語の歌やダンスに触れることができ、生活の中でも子ども同士や外国人と関わり等の場面で英単語を使ってコミュニケーションを取ろうとする姿が見られている。</li> </ul> |
|--|--|--|---|

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

### 総合的評価結果

| 評価 | 理由   |
|----|--|
| A  | 上記の取り組みを行った結果、一人一人の幼児を大切にしたい、質の高い教育を実施することができた。また、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。 |

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

### 今後取り組む課題

|   | 課題           | 具体的な取り組み方法  |
|---|--------------|---|
| 1 | 環境との共生       | 自然環境と共生していくために、幼児が主体的な遊びの中で、自然をどのように取り入れ自己と共生し獲得に対する指導と援助の在り方についてさらに探究していくことを次年度の課題とする。 |
| 2 | 幼児の探究性       | 日々の多様な生活を通して、好奇心や探究心を持って取り組む姿から教育課程の課題の実現について省察していく。                                    |
| 3 | 架け橋期         | 5歳児と小学校1年生との連携を図り、双方の接続期の諸問題を検討し、「主体的で対話的深い学び」の実現に向けて取り組む。                              |
| 4 | アンチバイアス教育の推進 | 多様性社会におけるアンチバイアス教育及びダイバシティ教育に取り組み、豊かな人間教育の基礎となるよう国際交流を介し、その精神性を育てる取組を推進する。              |

□ 学校関係者評価委員会の評価

令和 5 年度学校関係者評価委員会

期日 令和 6 年 6 月 1 2 日（水曜日）

時間 午後 2 時から 3 時

場所 会議室

|   | 評価項目                   | 評価 | コメント  |
|---|------------------------|----|---|
| 1 | 教育課程の見直し改善を図る          | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「保護者を支援し子育ての幸福感を大切にする保育を目指す」という理念の下、日々それを実践されていて救われることが大いにありました。</li> <li>●雨上がり朝など、ジャングルジムや鉄棒など、安全に使えるよう登園前に丁寧に拭いている先生方に感銘を受けました。</li> <li>●日々の安全点検が高く評価できる。</li> <li>●日々の細やかな配慮と努力に感謝したい。</li> <li>●今後も素晴らしい理念と環境の継続に期待します。</li> <li>●志村第一小学校校長先生の講演会や、志村第一小学校との交流会等、例年よりも幼少連携の機会が持てたことが大きく評価できる。</li> <li>●園児一人一人に寄り添った高い保育を継続してください。</li> <li>●母の会の役割分担を再編するとよい。</li> <li>●自然に目を向け、季節感や伝統文化を取り入れた様々な行事を経験できる保育を期待しています。</li> </ul> |
| 2 | 教育の質向上のために、園内研修を充実させる  | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナの状況が落ち着いたことで、子ども達の多様な経験のために行事や日々の計画を新たに練り、寄り添いながら保育されている先生方の姿がとても評価できる。</li> <li>●ホームページにも園内研修会のレポートが掲載しており、先生方が日々学びを深めていることが評価できる。</li> </ul>   |
| 3 | 特別支援教育のための園内支援体制を整備する。 | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●一人一人に対して対応されていることが評価できる。</li> </ul>   |
| 4 | 教育水準向上のための6項目（動物）      | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイバシティー教育・アンチバイアス教育に向けた取り組みが推進されており、自然環境との共存から共生への実践的取組が確認できた。</li> <li>●サンフランシスコ州立大学院大学附属幼稚園及びハワイ大学大学院マノア附属幼稚園との連携園として2名の教員をハワイ大学附属幼稚園に派遣、自然環境の共生について園長先生と意見交換するなど、幼児教育への取組が高く評価できる。</li> </ul>  |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  | <ul style="list-style-type: none"><li>●鯉の稚魚の様子をホームページ等でも発信し、家庭とつながりを持ちながら園全体で関わり育てていくという貴重な経験ができたのがとても良かったと思います。</li><li>●ハワイ研修を通して先生方が様々な刺激を受けたことで、自然環境との共生に向けたさらなる取り組みが生まれることや、子ども達の興味関心が高まっていくことを期待します。</li><li>●自信を身に付け卒園できました。</li><li>●自然が身近に感じながら保育してくれていることに感謝。</li><li>●生き物と遊びや生活また死との向き合いによって子ども達の生き物への思いやりの気持ちが育っていると評価できる。</li><li>●先生方がディスプレイしている植物に、親子で関心を寄せることができた。</li><li>●家庭で行うには難しい夏野菜やミニトマトなど様々な植栽を体験できていることは貴重である。</li><li>●園で育てて味わうことで家でも進んで食べるようになり、食育に繋がっていると感じた。</li><li>●イチゴの収穫祭ではコロナ禍の中、衛生面に配慮しながら子ども達にできる最大限の経験ができたことに感謝します。</li></ul> |
|--|--|--|